

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171500079		
法人名	株式会社 光樹		
事業所名	グループホーム光樹の杜		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町戸杓丙433-1		
自己評価作成日	平成25年4月25日	評価結果市町村受理日	平成25年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の事業所は、町中心部のJR有田駅より西に約1kmの閑静な住宅地にあります。H17年に有田地区初のGHとして開設され、9年目を迎える事が出来ました。ホームは料亭の山荘跡地に建ち、四季を感じとれる広大な日本庭園を併設し、静かな環境を有しています。職員22名は利用者、御家族様と信頼関係を築き、毎日のケアに取り組んでいます。特色としてターミナルケアの実施、理学療法士を招いての講習会、開設から続いている音楽クラブなどが有ります。他に系列の幼稚園、保育園との交流会が多くあり、利用者様は子供たちの来所を楽しみにされています。又、2016年は有田焼創業400年祭が有ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

陶磁器の町の山の手に位置し、元料亭の跡地に建つ2ユニットのホームである。料亭当時の庭がそのまま残り、四季折々に草木が彩りを添え、広いウッドデッキのテラスからの眺めは、ホームの自慢でもある。ホームの運営には地元の企業も関わられ、日常的に地域との交流や協力を得ている。また、食事面では、新鮮な食材を常に使用され、美味しく安心できる食事の提供に配慮している。管理者、職員は、運営や個別の介護サービスについて、さまざまな意見や提案を出し合い、入居者が最後まで馴染みの環境の中で、穏やかに過ごしてもらえるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
	さくら	たんぽぽ			さくら	たんぽぽ			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない					

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名 さくら)	自己評価(ユニット名 たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を施設内各所に掲げていて、毎日唱和する事で、職員はこの理念を基本目標に日々取り組んでいる。	法人理念を施設内各所に掲げていて、毎日唱和する事で、職員はこの理念を基本目標に日々取り組んでいる。	全体会議やユニット会議で理念の話し合いをして現場実践を行い、さらにその結果を各会議へフィードバックされ、理念実践の共有化が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区自治体に開設より加入していて、各行事には積極的に参加している。又、班長を務めた実績もある。他に、地域のボランティア、中学校特別支援の生徒さんとの交流もしています。	地区自治体に開設より加入していて、各行事には積極的に参加している。又、班長を務めた実績もある。他に、地域のボランティア、中学校特別支援の生徒さんとの交流もしています。	地域住民との交流が盛んに行われ、小中学校や保育園、幼稚園からの訪問もある。また、地区の班長も務められるなど、地域の一員として関わりが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談、見学できるよう施設を開放している。地域に向けては3回のキャラバンメイトサポーター講習を実施し、認知症についての理解を地域に発言している。	いつでも相談、見学できるよう施設を開放している。地域に向けては3回のキャラバンメイトサポーター講習を実施し、認知症についての理解を地域に発言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回開催を基本に家族様、民生員、社協、保険者、地域包括センターの担当者様と、運営者、職員代表にて意見交換しサービス向上に繋げている。又、議事録は職員にも回覧している。	年間6回開催を基本に家族様、民生員、社協、保険者、地域包括センターの担当者様と、運営者、職員代表にて意見交換しサービス向上に繋げている。又、議事録は職員にも回覧している。	会議では、入居者への状況やヒヤリハット事例等の報告が行われ、家族からも意見が活発に出されている。会議内容を議事録にまとめ、職員間での共有化に努められ、現場での支援に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の介護関係の会に参加している。他、運営推進委員会に町担当者、地域包括支援の担当者にも参加頂いている中で、指導、助言をサービスに活かしている。	町主催の介護関係の会に参加している。他、運営推進委員会に町担当者、地域包括支援の担当者にも参加頂いている中で、指導、助言をサービスに活かしている。	町の担当職員と、顔の見える身近な関係が出来ている。入居者支援について町と連携されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアを理解している。施設内は施錠せず開放性を基本にしている。玄関の施錠は夜間の戸締りのみで有る。身体拘束の勉強会を定期的実施しケアに活かしている。	全職員が身体拘束をしないケアを理解している。施設内は施錠せず開放性を基本にしている。玄関の施錠は夜間の戸締りのみで有る。身体拘束の勉強会を定期的実施しケアに活かしている。	身体拘束をしないケアの研修を年間スケジュールに組み込み、職員の意識向上やスキルアップに努められている。拘束については、専用書式に記録に残して、経過を把握されている。	今後、身体拘束が一時的であるよう、拘束解除に向けた検討会が定期的に行われ、記録に残されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、定期的に勉強会を実施し、ケアに取り組んでいる。又、関連して接遇についても同様の取り組みをしている。	高齢者虐待防止について、定期的に勉強会を実施し、ケアに取り組んでいる。又、関連して接遇についても同様の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名 さくら)	自己評価(ユニット名 たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度と安心サポートを利用されている方がいる。今後も制度について相談があれば支援していく。	現在、成年後見人制度と安心サポートを利用されている方がいる。今後も制度について相談があれば支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前は十分な説明を行い、施設見学も随時解放している。契約時には、利用契約書、重要事項説明書を作成し、解約を含めて、説明し、同意を頂き、契約を行っている。	契約前は十分な説明を行い、施設見学も随時解放している。契約時には、利用契約書、重要事項説明書を作成し、解約を含めて、説明し、同意を頂き、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ロビーに意見箱を設けて苦情や意見、要望を受け付けている。他に家族様の面会時には、意見、要望が言いやすい関係、雰囲気作りに努めている。	玄関ロビーに意見箱を設けて苦情や意見、要望を受け付けている。他に家族様の面会時には、意見、要望が言いやすい関係、雰囲気作りに努めている。	地域との密着度が強く、家族面会が多い。面会時に意見・要望等の聞き取りが丁寧に行われている。行事の時のアンケート調査も行われ、本人やご家族の意見をケアに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全職員会議に運営者が出席し、職員の意見を聞く場を設けている。又、施設運営者と個別の面談機会を設けている。	毎月の全職員会議に運営者が出席し、職員の意見を聞く場を設けている。又、施設運営者と個別の面談機会を設けている。	意見を言いやすい雰囲気の中、個別面談や月1回のユニット会議等で職員提案の議題について意見を出し合っている。職員からの意見を運営に活かし、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいよう、労働環境作りに努力されている。給与、労働条件の改善点などは副施設長、管理者が取りまとめ、職員が働きやすい環境作りに努めている。	職員が働きやすいよう、労働環境作りに努力されている。給与、労働条件の改善点などは副施設長、管理者が取りまとめ、職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で研修会を定期的実施している。他に、計画的に外部研修の機会を援助している。	事業所内で研修会を定期的実施している。他に、計画的に外部研修の機会を援助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、GH協会の研修会などへ参加。又、同業者との交流、勉強会に参加する機会を設け、質の向上に努めている。	管理者や職員は、GH協会の研修会などへ参加。又、同業者との交流、勉強会に参加する機会を設け、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名 さくら)	自己評価(ユニット名 たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自己決定が出来る入居者様には、他入居者様へ気兼ねなく話せる場所も提供している。	認知の進行により言葉による確認が困難時は、家族要望、本人の日常生活の様子を観察し、把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的に家族と関わり、話の中で希望や心配などの表出ができる様に関わっている。	御本人様、御家族と会い、話して頂ける様に細やかに配慮をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ間の情報共有である、記録の充実、特にその人の個別的な記録に心がけ、次の介護展開につなげる様にしている。	スタッフ間の情報共有である、記録の充実、特にその人の個別的な記録に心がけ、次の介護展開につなげる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事(食器洗い、洗濯物たたみ)を声かけしている。又、ありがとう、お疲れ様の言葉かけが出来ている。	その方のできる家事などを一緒にし、食事を共にし、笑い、泣き、時には叱りと、同じ時間を過ごすことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来てくださる家族、まったく見えない家族とあり、来て頂ける様に楽しい話題の提供を手紙でしている。	面会時に不安やご要望をお尋ねし、一緒に考え、支えることに努めている。月一回、御家族へ手紙にて近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの方に、スタッフも笑顔での接遇を心がけ、また来て頂ける様に環境を整備している。	定期的な老人会や、ボランティアの方々の来所が、知人・友人の面会としてつながっている。又、かかりつけ医院の継続やドライブでも支援している。	昔の職場や馴染みの場所への訪問が行われてる。面会時に行事等の案内をし、再訪問に結びつけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性を尊重し、他入居様との距離をおきながらも安全・安心に努めている。	日当たりの良い場所にソファを設けたり、メンタル面を考え、座席を工夫したり、談笑、活動しやすい環境に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名 さくら)	自己評価(ユニット名 たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への退居者様を含め退居された御家族との関係は手紙であったり、その方の御自宅へのお参りなどで顔を合わせる対話を心がけている。	他施設への退居者様を含め退居された御家族との関係は手紙であったり、その方の御自宅へのお参りなどで顔を合わせる対話を心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定が困難な方が多く御家族情報が主になるが日常生活、ケース記録により情報を得る様に努めている。	自己決定できる方には、その思いを尊重し困難な方にはご家族情報をもとに日常生活、又、ケース記録より情報を得るように努めている。	入居者の表情や発語、その日の様子から思いを汲み取り、「ユニットノート」等へ対応記録を残し、その人の思いの実現に役立てられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い、御家族の話し、地域の方よりの情報を得るようにしている。	本人の思い、御家族の話し、地域の方よりの情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の状況を把握し個々の日課表を作り、できるだけ本人らしく生活できる様に支援している。	入所前の状況を把握し個々の日課表を作り、できるだけ本人らしく生活できる様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録、ミーティングによって情報把握をし、家族要望も考慮しケアプランの見直しは定期的な会議で修正、継続できている。	日々の記録、ミーティングによって情報把握をし、家族要望も考慮しケアプランの見直しは定期的な会議で修正、継続できている。	「ユニット会議」で入居者の状況の共有化を図り、職員から介護計画についての意見を出し合われている。介護計画を独自の様式を作り、工夫されているが、一部分かりにくい面がみられる。また、担当者会議の記録が個別のものになっていない。	本人の希望・要望欄と、短期と長期の目標を分かりやすく記載する工夫や、担当者会議の記録を個別化されることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにそっての記載が十分ではないが、その人らしい生活の様子が書ける様に施設内研修で補足している。	ケアプランにそっての記載が十分ではないが、その人らしい生活の様子が書ける様に施設内研修で補足している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現行では施設規則、スタッフ人員とより多くのサービス提供には対応できない。しかし希望時はその対応も考慮している。	現行では施設規則、スタッフ人員とより多くのサービス提供には対応できない。しかし希望時はその対応も考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名 さくら)	自己評価(ユニット名 たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、有田の陶器市など四季折々の行事に参加、接しながら生活できている。	地域の行事、有田の陶器市など四季折々の行事に参加、接しながら生活できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族や本人の希望される病院と連携を図り、月に1回の往診や受診を継続し、適切な医療を受けられる様、支援している。	御家族や本人の希望される病院と連携を図り、月に1回の往診や受診を継続し、適切な医療を受けられる様、支援している。	希望のかかりつけ医の受診を支援している。また、地域の複数の協力医と連携し、緊急時の対応や、継続的な治療が受けられる体制が作られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々介護にあっているスタッフが日々の状況を把握し異常や気づきがあれば早期に報告することで適切な看護を受けられる様、支援している。指示簿の活用でスタッフ間への情報を正確に伝えている。	日々介護にあっているスタッフが日々の状況を把握し異常や気づき、相談があれば早期に報告することで適切な看護を受けられる様、支援している。指示簿の活用でスタッフ間への情報を正確に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族、関係医療室と情報を交換し状況把握に努めている。又、早期の退院が可能な様に、スタッフの医療知識も施設内外で研修を受けている。	面会や電話などで病院スタッフとの情報交換により、状況把握に努め、サポートできる様、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での御家族様の希望を把握し、利用者様の状態変化に応じて、その都度、御家族様の意向を確認し医療連携を図りながら安楽・安心を提供している。	早い段階での御家族様の希望を把握し、利用者様の状態変化に応じて、その都度、御家族様の意向を確認し医療連携を図りながら安楽・安心を提供している。	入居契約時に、重度化・終末期の方針を説明を行っている。ターミナルケアの職員研修を行い、看護師は24時間対応可能な体制を取っている。家族、主治医と連携を図りながら、重度化・終末期の支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の施設内研修、また、予測できるリスクに対しては、申し送り時に確認をしている。又、24時間オンコールでのナース待機とし利用者、スタッフの不安に対応している。	急変時は施設内研修、また、予測できるリスクに対しては、申し送り時に確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域消防署の参加を得て火災訓練を実施している。又、近隣家族も協力を得、連絡網の整備をしている。	年に2回、地域消防署の参加を得て火災訓練を実施している。又、近隣家族も協力を得、連絡網の整備をしている。	火災避難訓練は、夜間想定も行われ、消防団や地域住民の参加もあり、実施されている。避難場所も確保され、ホームの理事が飲食店の経営者であることもあり、食事などの確保も可能である。しかし、火災以外の災害対策は未整備である。	地震・風水害など、火災以外の災害対策を整備されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名 さくら)	自己評価(ユニット名 たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を失わないように対応をしている。日常会話の中で、排泄に関しては特に場所をわきまえ、低い声で排泄の誘導・処置を行っている。	自立されている方が1人と少ないが、呼名に関しても、きちんと名前をさん付けて呼び、言葉かけにも優しい配慮をしている。	入居者の尊厳を損なわないよう、呼称や排泄時のトイレ誘導、入浴時の肌の露出を控えるなど気をつけている。記録類も保管場所を決め、個人情報の保護が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来やすい様に、会話の内容をわかりやすくしている。又、できない方は表情等のボディサインで対応している。	自己決定できる人、感情の表出ができる方も多く、話しやすい、静かな環境を心がけ、必要時、家族の協力を得て実現できる様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の様子、スタッフ情報より把握し、穏やかな生活支援を常に心がけている。	個人のペースを把握し焦らせることのない様にスタッフ間で注意を合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の訪問美容を受けられており、女性の方はカラー・カット・パーマと個人の希望により楽しい時間となっている。	きれいにして下さいと口癖の入居者様もおられ、衣類、髪、ひげそりと配慮がなされている。又、訪問美容やなじみの美容室へと出かけられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の咀嚼力に合わせ、食事の提供形態に注意し、必ずテーブルにスタッフが付き添い安全を図っている。又、テレビは消しCDで楽しさを演出。	個人はゆっくりと食事が出来る様に場所、食事の形態を考慮し、テレビを消して、CDを流し、食事に集中して頂くようにしている。	静かな曲を流し、ゆっくりとした雰囲気作りを行っている。職員も一緒にテーブルにつき食事を摂られている。行事の時は、特別メニューが出され、天気が良い日は、広いテラスを使用するなど、食事を楽しむ支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を用い、1日30品目の食材を目標に地域性のある献立を提供している。食事摂取量、排泄チェック表も参考にし、毎週の体重測定で栄養価の評価をしている。	季節の食材を用い、1日30品目の食材を目標に地域性のある献立を提供している。食事摂取量、排泄チェック表も参考にし、毎週の体重測定で栄養価の評価をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員付き添いで、口腔ケアを実施。全員舌ブラシを使用し、個々に合わせた方法を用いている。	起床時、毎食後と口腔ケアは舌ブラシ・ガーゼと個人により方法は異なるが実施されており含嗽用のイソジン液は希釈し危険のない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名 さくら)	自己評価(ユニット名 たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレに誘導することにより、失禁を減らす努力とトイレ排泄を心がけている。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレに誘導することにより、失禁を減らす努力とトイレ排泄を心がけている。	排泄チェック表を利用して、その方の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレ誘導を促すように取り組まれている。排泄の自立が、少しでも長く継続できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて、個々のパターンを把握し、腹部マッサージや野菜ジュース・乳製品を取り入れて、自然排便を心がけている。必要時、主治医指示分の薬使用する。	個々の排泄パターンを把握し、腹部マッサージ・水分摂取、又、必要に応じて下剤を使用しスムーズな排泄を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めてはいるが、体調や気分を優先している。入浴剤や職員との会話でゆっくりと楽しめるよう支援している。	個人の体調により入浴、シャワー浴、清拭で安楽に対応している。	ホームには大小2つの浴槽があり、入居者の状態や、時間や順番など希望に配慮し、入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の体調や希望にあわせ、誘導を行っている。安心して気持ちよく休息・入眠できるよう傾聴や湯たんぽを使い、室内環境に配慮。	体調、気分、希望にあわせ入床を促している。安心した気持ちで休息、入眠ができる様に室内の照明、音量調整、空調調整と心がけている。夜間のコール音も低くし、静かな環境に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに内服薬情報を入れ、いつでも確認ができる。又、臨時薬時は指示簿記載で伝達を図り、又、確認印をつけて確実に内服されるようにしている。	カルテに内服薬情報を入れ、いつでも確認ができる。又、臨時薬時は指示簿記載で伝達を図り、又、確認印をつけて確実に内服されるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操の号令かけ、調理材料の切り方など生活歴や好み、力に合った役割。レクリエーション、体操など強制することなく無理なくできている。	体操の号令かけ、調理材料の切り方など生活歴や好み、力に合った役割。レクリエーション、体操など強制することなく無理なくできている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外来受診の活用も含め、散歩やドライブ、行事など外出支援している。困難な方はウッドデッキや敷地内でも解放感を持って頂けるようにしている。	外来受診の活用も含め、散歩やドライブ、行事など外出支援している。困難な方はウッドデッキや敷地内でも解放感を持って頂けるようにしている。	外来受診時に入居者の馴染みの場所への立ち寄り、季節により庭での梅ちぎり、広いテラスでの外気浴、ホーム周辺の散歩など、入居者の状態に応じて、外出支援が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価(ユニット名 さくら)	自己評価(ユニット名 たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持困難な方が大多数にて施設で管理しているが、外出時は職員支援にて使用している。	お金の所持困難の方が大多数にて施設で管理しているが、外出時は職員支援にし使用している。自己管理できる方は家族了解でもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙を出せるよう支援している。年賀状は6名の方が自筆で出せており、御家族の喜びがあっている。	電話の依頼があれば、時間帯にもよるが、家族協力を打診し対応できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、部屋にも温湿度計を設置し、快適空間の確認ができる。又、夜間も入居者様の希望で照明を暗くしたり、安全面の配慮をしながら行っている。又、季節感のある置物を設置。	換気を定期的の実施し、テーブル・椅子の配置にも注意し、自立歩行を支援する環境を整えている。	元料亭跡地のホームは、当時の庭が残っており、季節の草木が花を付け、景観の良い環境にある。テラスを広く設け、外気浴や食事など、気軽に屋外で過ごせるよう配慮されている。室内は床暖房で、ゆったりとした音楽を流し、居心地よく過ごせる環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	親しく話し合われたり、気遣いをされる方々は同じテーブルを用意し、自然な会話を楽しまれている。	個人の特性に合わせ、椅子の配置を考慮している。一人で作業、一人でドリルをと自分らしく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は家族と相談し、使い慣れた家具・衣類を持参していただいている。	入居時は家族と相談し、使い慣れた家具・衣類を持参していただいている。家族・本人の希望で居室にドレッサーが入ったが、やはり安全の配慮を一番にしている。	入居者の歴史が感じられる部屋作りに努め、昔の馴染みの品や愛着のある物等を部屋に置かれ、落ち着いた雰囲気の中で生活できるように取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたまれたり、食事前の唱和など、できる所で活躍されている。	できることで自立歩行、自己決定、車椅子での自走など見守りながら支援できている。		